

ブログを使った市民向け講座の資料提供

Material presentation for civic education course using blog system

野村 卓志

文化政策学部文化政策学科

Takashi NOMURA

Department of Regional Cultural Policy and Management, Faculty of Cultural Policy and Management

寒竹 伸一

デザイン学部空間造形学科

Shinichi KANTAKE

Department of Space and Architecture, Faculty of Design

川口 宗敏

デザイン学部空間造形学科

Munetoshi KAWAGUCHI

Department of Space and Architecture, Faculty of Design

まちづくりにおいてリーダーとなる人材の育成を目的とした「まちづくりリーダー養成講座」を、静岡県都市計画室および静岡文化芸術大学が協力して開催している。本年度で第5回を迎えたこの講座では、インターネットのWebページを用いて教材資料を受講者に提供している。コンテンツ・マネージメント・システムの一つとして注目されているブログを用いて、この教材資料の提供を試みた。ブログは、本来は日記形式の記述を行うためのシステムであるが、各ページのテンプレートを変更することにより、教材資料の提供にふさわしいページを生成させた。また、階層的なカテゴリー機能を用いて、章・節や課題の内容・レポート・講評を構造的に利用者に提示した。本論文では、作成したサイトの階層構造やナビゲーション、そしてこれらを構成するためのテンプレートの構成について述べる。

A education program named "Cultivation of Civic Leader in Town Developing" have been organized as a joint program of Local Government of Shizuoka Prefecture and Shizuoka University of Art and Culture. Teaching materials of this program are presented using World Wide Web. Construction of the web site by utilizing the blog system is attempted. The templates of the blog system is adopted to suit a structural presentation of the teaching materials. This paper describes a hierarchical structure, navigation and modification of the templates for a construction of the site. Relative merits of utilizing a blog system for the construction of web site for education programs are discussed.

1. はじめに

まちづくりにおいて当該地域のリーダーとなる人材の育成を目的として、一般市民を対象とした「まちづくりリーダー養成講座」を、静岡県都市計画室および静岡文化芸術大学が協力して開催している。本年度で第5回を迎えたこの講座では、インターネットのWebページを用いて教材資料を受講者に提供している。また、受講者の質問受付、これに対する回答や意見交換は電子会議室を用いて行っている。

2004年度に開催した「第3回まちづくりリーダー養成講座」までは、資料提供のWebページは手作業で作成していた。しかし、講座の回数を経て教材資料が充実するにつれてWebページ作成の作業量は次第に大きくなり、また利用者から見てもナビゲーションが十分ではなく、目的の資料を探すことが容易ではないという問題が生じていた。

近年、ブログ(blog)は、コンテンツ・マネージメント・システム(CMS)の一つとして注目され、一般的に広く利用されるように

なった。筆者の一人は、大学の講義支援のためのツールの一つとしてブログを用いてきている[1,2]。この手法を用いて「まちづくりリーダー養成講座」の教材資料の閲覧サイトをブログを用いて構築することを試みた。

本論文では、作成したサイトの階層構造やナビゲーション、そしてこれらを構成するためのテンプレートの構成について述べ、ブログを用いて教材提示のためのサイトを構成することの得失について論じる。

2. サイトに要求される機能

「まちづくりリーダー養成講座」では、Webページを利用して教科書テキストおよび資料を受講者に閲覧してもらう。受講期間は11か月である。受講者は、一般公募に応募した中から選ばれた120名であり、性別、年齢、職種などは多岐にわたるが、全般に年齢は50代以上の高めの人が多く、またコンピューター利用に関するスキルは必ずしも高いとは言えない。これより、サイトは極力ナビゲーションを平易にして利用しやすくする、

ユニバーサルデザインの条件を満たすように考慮する必要がある。

養成講座のサイトで提供する情報は以下のものである。中心となるテキストは全部で 8 講からなり、ほぼひと月に 1 講ずつ公開している。一つの講義は、平均 4 個の項目からなり、各項目がそれぞれ 3 個程度の付属資料を有している。養成講座を修了した受講者には「まちづくりリーダー」の称号を与えるが、この前提条件として全部で 3 回の課題に対するレポートの提出を求めている。各回において、受講者からのレポートが出そろったところで、講師側から講評を行っている。これより、全 3 回の課題に対して、課題の出題文、受講者から提出されたレポート、および講師の講評の 3 種の文書を提示する必要がある。さらに、まちづくりの現場を体験してもらう現地視察研修（全部で 3 回）の案内および報告、さらに用語解説（130項目）を掲載している。

第 3 回までの講座では、資料提供の Web ページはすべて HTML エディタを用いて手作業で作成した。内容に合わせてページのデザインや構成を自由に作成することが可能な反面、その作業量は大きく、一貫したナビゲーションを作成することが難しいという問題があった。特に、テキストや資料の構成をあとから変更した場合において、ナビゲーションの作成・修正といった作業を正しく行うことは難しく、誤って存在しないリンク先を参照してしまったり、一貫性の無いサイト・ナビゲーションを構成してしまうことがあった。さらに、作成した Web ページを構成するファイルをサイトに投稿する時に使用する ftp 運用管理の煩雑さや、ページ制作の一貫性を維持するのが難しいなどの点から、これらページの作成・メンテナンス作業を複数人数で分担することは容易ではなかった。

また、ナビゲーションは、多段階のメニューページを用いてツリー状に構成したが、これはユーザーにとっては必ずしも見やすいとは限らないという問題点もあった。

3. ブログを用いたサイトの構成

前節で述べた問題点を解決するために、ブログシステムを用いて「まちづくりリーダー

養成講座」のサイト構築を行った。ブログとは、ウェブログ（Web-log）を短縮した造語であり、広義にはウェブ日記のことを指している。本稿では最近広く使われるようになったブログシステムのひとつである、シックス・アパート社の Movable Type 3.3-ja [3] を用いた。その動作の概念図を Fig. 1 に示す。記事の書き手は、Web ブラウザー上で記事入力画面を呼び出し、記事のタイトル、本文、カテゴリ等を入力する。記事の投稿日時は自動的に記録されるが、投稿後に管理画面から変更することも可能である。記事入力等の管理画面を呼び出すためには、システムへのユーザ登録とパスワードが要求される。記事入力画面で記事の投稿を指示すると、記事内容はデータベースに記録されるとともに、あらかじめ設定しておいたテンプレートに基づいてサイトのトップページにその記事が掲載される。さらに、個々の記事毎のページが生成され、さらに設定したカテゴリ別記事のページにも投稿した記事内容が記載される。Movable Type の特徴の一つは、これら生成されたページは HTML で書かれた単なる Web ページであり、これら閲覧するだけならば CGI 等のプログラムは必要ないことである。これにより、Apache のベーシック認証機能を使って、受講者だけにページを閲覧させることが容易に可能になった。また、Movable Type の最近のバージョンでは階層的なカテゴリ作成機能を有しており、サイト構成に有用であった。

サイトは、プログラミング言語 Perl およびデータベースである MySQL が利用可能な学外のレンタルサーバを用いて運用した。これは、Movable Type が Perl で記述されており、また動作に MySQL などのデータベースを要求するためである。

Movable Type によって生成される各ページの構成要素やデザインはテンプレートによって決定される。本来は日記的なサイトを公開するために作られたシステムであることから、初期デザインではトップページには近日に書き込まれた数個の記事が表示され、各記事にはそれぞれ日付、表題、本文が表示されるようになっていく。カテゴリ別記事のページには、指定したカテゴリのすべての記

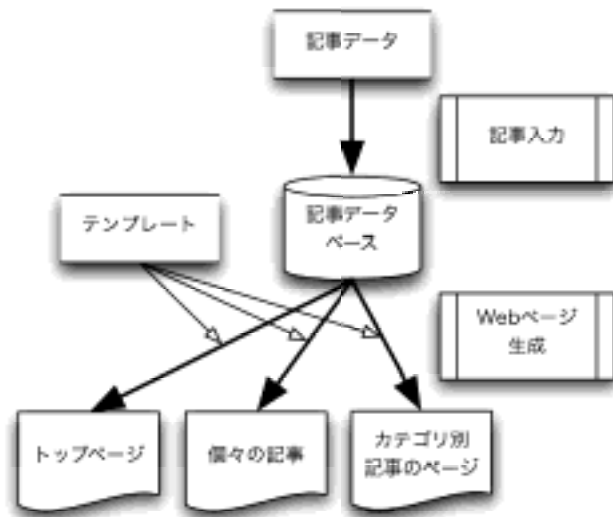


Fig.1 ブログシステム動作の概念図

まちづくりリーダー養成講座 (受講者ページ)

講座受講者用のページです。このページを閲覧可能なパスワードは、第4回の受講者、および第1回から第3回の受講者です。

養成講座からお知らせ

- 第4回「まちづくりと土地利用」のテキストを公開します。
- 第2回レポートの課題を掲載しました。ページ中の「課題レポート」をクリックしてください。
- 第1回視察研修の写真を掲載しました。ページ中の「現地視察研修」をクリックしてください。

目次

- 第1回 これからの都市計画と市民参加
- 第2回 魅力ある中心街づくり
- 第3回 住民参加ワークショップ
- 第4回 まちづくりと土地利用
- 第5回 まちづくりと公共交通
- 第6回 土地区画整理事業によるまちづくり
- 第7回 暮らしやすいまちづくり (地区計画とデザインコントロール)
- 第8回 まちづくりリーダーとは
- 現地視察研修
- 用語解説
- 課題レポート

Fig.2 養成講座サイトトップページ

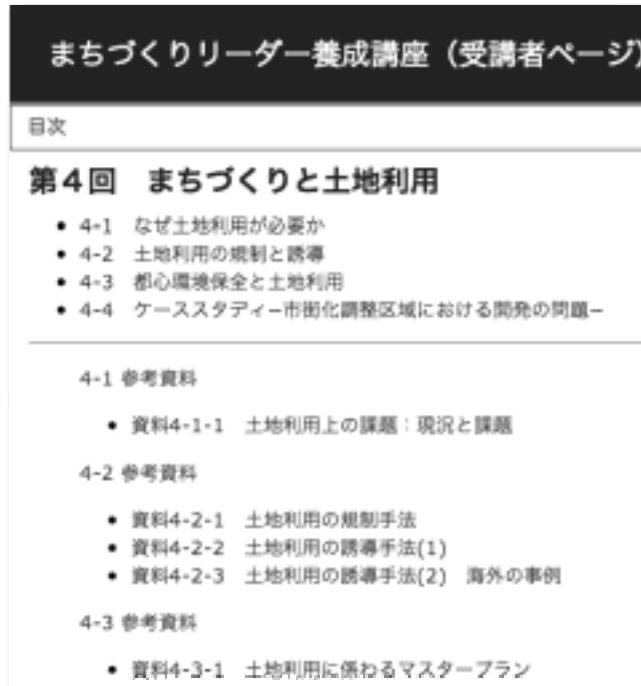


Fig.3 カテゴリーページの例

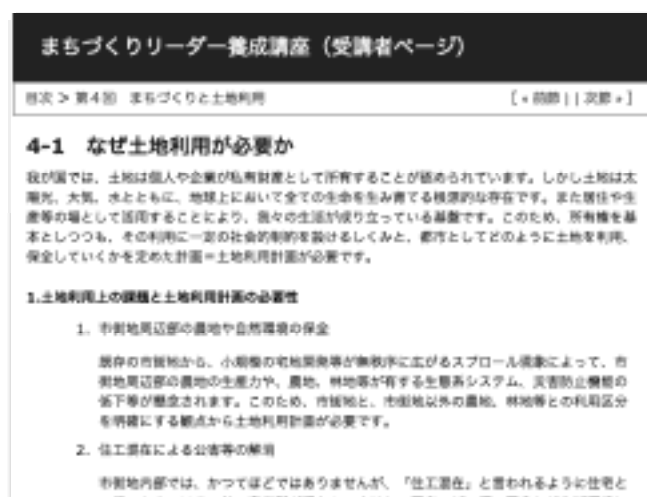


Fig.4 個別記事ページの例

事が含まれる。また、個々の記事のページには、日付、表題、本文、コメント、トラックバックが表示される。また、これらの記事は日付をキーにして降順にソートして（すなわち、新しい記事から順に）表示される。

このように、使用したブログシステムが生成する Web ページの初期デザインは日記を強く意識したものであり、資料提供のサイトに適したデザインではない。そこで、テンプレートファイルを編集して構成するサイトのデザインを調整した。テンプレートは、ページを構成する HTML 文と、データベースから得られた記事表題や内容等で置き換えられる Movable Type 固有のメタタグで記述されている。サイトの構成要素と見かけのデザインは CSS を用いて明確に分離されており、変更は比較的容易である。CSS を利用した見かけのデザインは、文字を大きく、配色のコントラストが強くなるようにして、誰にも見やすくなるようなユニバーサルデザインの性質を満たすようなものにした。

サイトの中身は、上に述べたように「講義テキストと参考資料」「課題とレポート」「現地視察研修」「用語解説」の 4 種類からなる。これらは、階層的なカテゴリーを用いてページを構成した。

講義テキストは 8 講からなるが、この各講ごとにカテゴリーを割り当て、講義の各項目のテキストを配置した。各項目毎に複数存在する参考資料は、各項目に対応するサブカテゴリーに配置した。

課題とレポートは、三つの課題ごとにカテゴリーを設け、このサブカテゴリーに「出題」「レポート」「講評」の 3 カテゴリーを設け、対応する内容のページを配置した。視察研修に関するページも同じように構成した。

用語解説は、全体に一つの「用語解説」と名付けたカテゴリーを設け、サブカテゴリーは設けなかった。

カテゴリーはカテゴリー名の昇順にソートされるため、必要ならばカテゴリー名の最初の文字に「a」「b」などの文字を挿入して並び順を制御した。

養成講座サイトのトップページは、オリジナルのテンプレートに記載されていた日付、記事表題、本文を表すメタタグを全て取り除

き、各カテゴリーページへの参照とともに、カテゴリーの階層構造が表示されるように構成した。また、各カテゴリーページも、もとのテンプレートには該当するカテゴリーに属する記事表題と本文を表示するメタタグが記述されていたが、これを各記事のページへの参照とともに各記事の表題がリストアップされるようにした。これにより、Fig.2 に示したサイトトップページの目次の部分や、Fig.3 に示した各講内の項目を示す目次が、人手を介することなくブログシステムによって自動的に生成されるようになった。

また、各項目テキストのページ (Fig.4) からは日付のメタタグおよびコメント、トラックバックの機能を削除し、表題と本文のみが表示されるようにした。これは、講座テキストに日付は必要ないこと、また受講者の質問・意見交換は別に用意した電子会議室で行うことにしたためである。

さらに、各ページの上下にはナビゲーションを配置した矩形の領域を設けた。この領域には境界線を描画し、利用者にナビゲーションの存在を示すことにした。ナビゲーション領域の左側にはトップページおよびページが属するカテゴリーページへのリンクを設けた。これは Web サイトのデザインで言う「パン屑」に相当するものとなり、該当ページへの移動だけではなく、サイトのなかで今見ているページの位置を示すことにもなる。また、ナビゲーション領域の右側には、前のページおよび次のページへのリンク（前節／次節と記載）を設け、本のページをめくっていくようにサイトを閲覧できるようにした。これらのリンクは、全てテンプレートでメタタグを記述しておくだけで、ブログシステムが自動的に生成する。これにより、サイト作成作業の煩雑さを避けることができ、またリンク先アドレスの設定の誤りを無くすことができた。

用語解説は、講義の個別記事のページと同様に構成し、記事表題に用語の単語を入れ、本文に解説記事を入れた。これだけでは、単に用語解説のページを作ったにすぎないが、Movable Type は組み込みの全文検索機能を有しているため、これを利用して用語解説のページを検索することができる。そのために、サイトの全てのページに検索フィールドを持

たせ、どのページからも容易に用語解説を含む全サイトを検索できるようにした。これも、検索フィールドのメタタグをテンプレートに記述することにより、全ページに検索欄を自動的に生成させた。

4. 考察

まちづくりリーダー養成講座サイトは現在も運用中であり、ここで論じる内容は途中経過ではあるが、講座テキストの提供をブログで試みて明らかになった得失を述べる。

本来は日記形式のデータを Web で閲覧するために考案されたブログシステムであるが、テンプレートを適切に変更することにより、教科書のような構造を持った文書をユーザーに提供するシステムとして活用しうることがわかった。特に、サイトの階層構造や前後のページへのナビゲーションが自動的かつ誤りなく生成できる利点は大きい。一般に、ページの構成や順番をあとから変更したときにはナビゲーションの混乱が生じやすいが、ページ構成の変更をデータベース上で変更し、ブログシステムにサイト全体のページ再構成を指示することによって、構成の変更を Web ページのナビゲーションに自動的に反映させることができた。

また、データ入力を Web 画面で行えることから、サイトの構成を事前に計画しておけば、複数人数が複数の場所で入力や誤り訂正などの編集作業を共同で行うことが容易に可能である。これは、ブログシステム利用の大きな利点である。

逆に、設計段階で構成した階層の枠に収まるデータだけならば、ブログシステムに機械的に処理させることができるが、これ以外の種類のデータを運用時に臨機応変に加えることは難しい。このようなデータは、手作業でページを作成して対応する必要がある。この事例では、操作方法を説明したマニュアル文書などがこれに相当した。

また、まちづくりリーダー養成講座は受講者のみに閲覧させるサイトではあるが、講義の一部のテキストを一般向けに公開した [4]。このサイトの構築も、受講者向けサイトからテンプレートや記事データを複写するこ

とで容易に構築できた。

一方、本来教科書・資料の提示のためのシステムではないブログを応用したために、ページの順番は各記事に付属する日付を操作して制御する必要がある。本来のブログでは、日付はページのデータを書き込んだ日付が自動的に記録されるが、これを手作業で管理・修正することによって、ページの配置を整えた。これは、ブログシステム以外のところで一覧表を作り、誤りなく各ページの日付、時間を設定するように計画する必要があった。

また、ブログではトップページに最新の情報が常に掲載されるため、ページを開けば更新点は常に明確である。しかし、本稿で示したようなページ構成にすると、サイトのどの部分が更新されたかは必ずしもサイト閲覧者には自明ではなくなってしまう。サイトが提供する RSS (rich site summary) 情報を利用すれば更新情報を得ることができ、RSS ページが自動的に作成されることもブログシステムを利用する利点の一つある。しかし、必ずしも受講者のコンピュータスキルが高くないことから、提供している RSS 情報はあまり活用されていないようである。これは、Web ブラウザの機能向上などによって RSS 情報の利用が一般的に広まれば、解決される問題であると考えている。今年度は、ページトップ (Fig.2) に「お知らせ」の項目を作って更新部分を閲覧者に知らせたり、電子会議室を利用してサイトの更新情報を告知することによって対処した。

5. まとめ

ブログのような汎用的なツールは、設置・設定が容易であり、その運用も簡便に行うことができる。一般市民を対象とした講座において、教科書的な資料を提供するためのサイトをブログシステムを使って構築した。ブログは、本来は日記形式の記述を行うためのシステムであるが、各ページのテンプレートを変更することにより、教材資料の提供にふさわしいサイトを構築することができた。また、階層的なカテゴリ機能を用いて、講義テキスト・資料や課題の内容・レポート・講評を構造的に提示した。手作業でページを構成する

ことに比べると、デザインが一貫してナビゲーションの整ったサイトが自動的に構成できる利点は大きい。

謝辞

本事業は、静岡県都市計画室の委託を受けて行った。

【参考文献】

- [1] 野村卓志、ブログを用いた講義支援の試み、平成16年度情報処理教育研究集会講演論文集、p281～283 (2004)
 - [2] 野村卓志、ブログを用いた講義支援、静岡文化芸術大学研究紀要 6, p39 (2005)
 - [3] Six Apart, Movable Type <<http://www.sixapart.jp/movabletype/mt3/>> (2006.10.11 閲覧)
 - [4] まちづくりリーダー養成講座 (公開ページ) <<http://nomlab2.sakura.ne.jp/>> (2006.10.11 閲覧)
-